

# 浄泉寺報

第34号  
2023年  
秋彼岸



この夏の盆会の様子

## 目覚めよ - その二 -

浄泉寺住職 望月廣三

前号では「苦」をテーマにしました。苦は単なる苦ではない、再生の苦なのだ、と言いました。今回はさらに大切な事を論及します。

それはなぜ人間は苦しむのか、です。その理由は病気や金など様々ですが、問題はそれにとらわれる「基因」です。ほとんどの人は病気が原因だと、金に困ってい

ることが原因なのだ、思っていますが、けつしてそうではありません。

お釈迦さまは、その原因は「煩惱」なのだ、と教えられました。

煩惱は「自分中心」という、つまり自分さえよければ…、というエゴです。

病気で苦しむのも、「なんで、なんで」と悩む意識、このおもいにとらわれて苦しむのです。

だから、病気も金の問題も、自分の思いどおりにしたいがそうならない現実、悩み煩うのです。

この事実関係を知ることだと、仏教は教えているのです。

迷いの原因は「道理を知らない」ことです。

悩む原因そのものにあるように思いますが、そうではありません。

悩む原因は病気や金ではない、それにとらわれて「なんで、なんで…」とイライラし、クヨクヨする煩惱が原因なのです。

このことに気づかねばなりません。この事実、気づけば全く新しい自分を発見することができずは、はずです。

(つづく)

## 浄泉寺からのお知らせ

### ● 報恩講 ●

十二月の報恩講の詳しいご案内は、後日お葉書にてお送りします。真宗門徒にとつて一年で最も大切な法要です。ぜひお参りください。

## ・ 若坊守のひとりごと ・

宇多田ヒカルさんの『あなた』

という歌の一節に「終わりのない苦しみを甘受し Darling 旅を続けよう」という歌詞があります。

「終わりのない苦しみ」は人生の本質であり、苦を受け止め、人生という旅を続けてほしいと歌う

この歌は、宇多田ヒカルさんが自身の息子さんをもつて作られ

たそうです。この歌の中で甘受という言葉を見た時、何だか仏教的で好きだなと感じました。

もともと「甘受」という言葉は

「快く受け入れる」という意味であったものが、現在では「与えられたものを仕方ないものとして受け入れる」という意味で使われるようになっています。どちらにしても「受け入れる」ということが難しい私達です。

突然自分の生活が壊された時、

人に傷つけられた時、大切な人が亡くなった時…様々な苦しみを抱えながら、それでも「これが私の人生だったなあ」とありのまま受け入れられるでしょうか。どうあっても、ありのまま受け入れられない私だから、子を案じる母の様に、仏法が届けられているのではないのでしょうか。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)



法名を手に記念撮影

## お内仏(仏壇)に座る ③② ～ 得度その2～

前号でお知らせさせていただきましたように、浄泉寺に新たな僧侶が誕生しました。9歳になった娘・一海が、僧侶になる儀式(得度式)を経て、仏弟子・釋尼一海としての歩みをはじめました。

8月7日。京都の本山・真宗本廟(東本願寺)において、門首(親鸞聖人の血統を受け継ぎ、門徒や僧侶の先頭に立って教えを聞き、親鸞聖人の御真影のお給仕をされる役。現在はブラジル国籍を持たれる大谷暢裕門首)から剃刀の義(「おかみそり」ともいわれます)を受け、お釈迦さまの弟子としての名前

である法名・釋尼一海を授与されました。「釋」は、お釈迦さまの弟子になったことを表します。お釈迦さまの弟子とは「仏・法・僧」(仏さま・仏さまのはたらき・教えを大切にすることのつながり)の三宝に帰依して生きていくということです。なお、法名は僧侶に限らず、門徒の皆さんが帰敬式(おかみそり)を受けられた時にも授与されます。生前に法名をいただくご縁のなかった方は、亡くなってから法名をいただくこととなります。

「おかみそり」とは、「勝他・利養・名聞」(勝った負けた・損か得か・自分をよく見せようという心)にふりまわされずに生きる出発点を、髪を剃るといって形で表し

ています。しかし、人間はこのような欲望から簡単に逃れることはできません。山に登って修行して救われる道ではなく、やむにやまれぬこの生活のただ中で、教えを聞いて歩む厳しさが実はそこにあるように思います。

娘の得度を心から嬉しく思うと同時に、手本でなくていい…、どんな人生であっても、仏さまの大きな掌の上で遊ぶがごとく生きる「見本」であれと思います。  
(浄泉寺若院・釋亜世)



緊張の得度式

「おぼうさんになって」 一海

とくど式は、とてもつかれた。

その後、前にすわり、「しょうしんげ」をとらえた時は、きんちょうして、声がいつもどおりでなかったけれど、みんなの前で、せをむけ、お手ほんや中心になれてうれしかった。

おつとめを自分が成り立たせていると感じて、ウキウキした。

前に出ることは苦手だけど、これから新しいちようせんをしたい。

### 令和5年(2023年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和4年(2022年)亡
三回忌	令和3年(2021年)亡
七回忌	平成29年(2017年)亡
十三回忌	平成23年(2011年)亡
十七回忌	平成19年(2007年)亡
二十五回忌	平成11年(1999年)亡
三十三回忌	平成3年(1991年)亡
五十回忌	昭和49年(1974年)亡

<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

電話 0799-22-4798

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>